



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
 「心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつ」



とひの かふち

《学校だより》 第5号

令和2年6月16日発行
 湯河原町立湯河原小学校
 校長 北村和裕

学校が再開して2週間がたちました。A、Bグループに分かれての分散登校を経て、11日からは一斉登校、そして、15日から給食開始と、段階的に学校生活をもとに戻そうとしています。子ども達も少しずつ生活のリズムや学習のペースを取り戻しつつあります。登校して教室に入る前の手洗いや健康チェックことなどの新しい生活様式も身につけてきています。新型コロナウイルスの感染症予防と学びの保障の両立をめざしていきます。



朝の手洗い

給食が始まりました！

いよいよ今年度の給食が始まりました。1年生にとっては初めての、そして、2～5年生にとっては3月2日以来の給食です。とはいえ、給食は感染のリスクが高い活動であり対策を十分にした上での実施ということになります。

具体的には、給食の準備の間に児童は石けんで手を洗ってからアルコール消毒をして、静かに自分の席で待ちます。給食ワゴンの運搬や配膳については、しばらくの間は、児童が給食当番として行うのではなく、サポートに入った大人の手で行います。普段、給食を作ってくださっているレクトンの調理員さん方にも配膳を手伝ってもらっています。献立についても、配膳が簡単にできるようにできるだけ品数の少ないもので適切な栄養摂取ができるものにしていきます。食べる時は、大声での会話は控え、全員前を向いて食べるようにします。



大人だけで配膳



いろいろと制約がありますが、児童は新しい給食様式にも初日から順応し、配膳をしている間、自分の席に座って静かに待ったり、パンやスープなどをじっくりと味わいながら食べたりしていました。

がんばれ1年生！

4月5日に入学式は行いましたが、本格的に学校生活が始まったのは6月になってからです。

背中に大きなランドセルを背負って登校し、教室に入ると教科書などを机の中に入れて学習の準備をします。



朝の1年生の教室の様子

6年生が手伝いに来てくれていますが、自分で支度ができる子も多くいます。

午前中にずっと学習をするのも初めてです。国語、算数、図工などでは自分の席に座って頑張っています。先日は職員室に皆で入ってきて中をキョロキョロ見て回りました。生活科の「がっこうたんけん」の学習です。「この学校は大きいね。」と驚いている子もいました。大人でも迷うほど広い校舎ですから、1年生が驚くのも当然です。校舎を探検して、いろいろな発見し、多くのことを学んでいきます。



A棟1階をたんけん

地球環境と資源を守るための一歩

昨日から給食が始まり、昼食の用意をしなくて済むようになりました。3ヶ月間の臨時休業中は、通勤する途中でコンビニに寄り、昼食を買うことが多かったのですが、その時心掛けていたことがあります。品物を入れるビニール袋と割り箸とおしぼりをもらわないということです。初めのうちは、店員さんが当たり前のようにビニール袋と割り箸、おしぼりを用意するので「それは結構です。」とお断りしていました。しばらくすると、家から持ってきたビニール袋を差し出すだけで、店員さんは割り箸やおしぼりは用意しなくなりました。何気なく始めた取り組みですが、3ヶ月も続くと、そのまま受け取っていたらいったいどれだけ資源を無駄にしていたのだろうと思ひ、恐ろしくなります。地球環境と資源を守るために、一人ひとりができる小さなことを1つ1つ取り組んでいきたいですね。地球の未来のために。